

「この人 56」

森岡香代子 愛媛県

編集部 俳句を始められたのは？

森 岡 四年前になりますね。

編集部 滑稽俳句を始められたのは？

森 岡 八木会長に出会ってから俳句を始めましたので、俳句を始めたのと同時に、滑稽俳句を始めたことになりますね。

編集部 滑稽俳句の魅力は何でしょうか。

森 岡 自分自身の中に埋もれていた可笑しさを発見できることです。

編集部 俳句における滑稽とは？

森 岡 この問いは、私の人生のおおいなる課題であり、謎だらけです。だからこそ、楽しくて追求しがいがあります。

編集部 滑稽俳句を続けていて良かったことは？

森 岡 初対面の方とのお話が、スムーズに出来るようになったことと、プラス思考になったことですね。

編集部 滑稽俳句を作るコツは何でしょうか。

森 岡 そうですね。五感プラス、何か別の力といいますか、別の感性で作ることでしょうか。

<代表句>

水盤の魚動いて水笑ふ
玉葱と話すといつも涙声
生足のとろけ出したる炬燵かな
足音に身動きとれず春筍
冬型の指紋動かず日本地図